

重近啓樹先生の略歴・業績

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2013-03-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 戸部, 健 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00007057

重近啓樹先生の略歴・業績

戸部 健

略歴

- 一九五一年 一月 岡山県に生まれる。
- 一九七三年 三月 明治大学文学部史学地理学科卒業。
- 一九七五年 三月 明治大学大学院文学研究科史学専攻修士課程修了。
- 一九七八年 四月 東京都立調布北高等学校非常勤講師（一九八三年三月まで）、東京都立日野高等学校非常勤講師（一九八〇年三月まで）
- 一九七九年 四月 東京都立石神井高等学校非常勤講師（一九八一年三月まで）
- 一九七九年 九月 東京都立井草高等学校非常勤講師（一九八〇年八月まで）
- 一九八〇年 一月 東京都立国分寺高等学校非常勤講師（同年三月まで）
- 四月 東京都立東久留米西高等学校非常勤講師（一九八三年三月まで）

- 一九八一年 三月 明治大学大学院文学研究科史学専攻博士課程単位取得退学。
- 四月 埼玉大学教養学部非常勤講師（一九八二年三月まで）
- 一九八二年 四月 明治大学文学部非常勤講師（一九八五年三月まで）、東京都立久留米高等学校非常勤講師（一九八四年三月まで）
- 一九八三年 四月 東京学芸大学教育学部非常勤講師（一九八五年三月まで）、東京都立国分寺高等学校非常勤講師（一九八五年三月まで）
- 一九八四年 四月 日本学術振興会奨励研究員（明治大学文学部にて、一九八五年三月まで）
- 一九八五年 四月 静岡大学人文学部専任講師。
- 一九八七年 四月 同人文学部助教授。
- 一九八九年 三月 博士（史学・明治大学）を取得。
- 一九九六年 四月 同人文学部教授。大学入試センター教科専門委員会委員。
- 一九九七年 四月 大学院人文社会科学研究科担当となる。
- 一九九八年 四月 人文学部国際交流委員長（二〇〇〇年三月まで）。
- 六月 大学入試センター試験問題等データベース委員会委員。
- 二〇〇〇年 四月 人文学部教務委員長。
- 二〇〇一年 四月 人文学部社会科学科長。
- 二〇一一年 四月 人文学部国際交流委員長。
- 二〇一一年一月 病気のため死去、享年六〇歳。

研究業績

【著書】

一、「秦漢税役体系の研究」(汲古書院、一九九九年二月)、三三七頁。

【分担執筆】

- 一、栗原益男先生古稀記念論集編集委員会編『中国古代の法と社会—栗原益男先生古稀記念論集—』(汲古書院、一九八八年七月)、「秦漢の公田について」二一〜四三頁。
- 二、「中国古代の国家と民衆」編集委員会編『中国古代の国家と民衆—堀敏一先生古稀記念—』(汲古書院、一九九五年三月)、「秦の内史をめぐる諸問題」七一〜九二頁。
- 三、樺山紘一ほか編『岩波講座世界歴史 五』(岩波書店、一九九八年九月)、「秦漢帝国と豪族」一六九〜一九五頁。
- 四、殷周秦漢時代史の基本問題編集委員会編『殷周秦漢時代史の基本問題』(汲古書院、二〇〇一年六月)、「秦漢の兵制をめぐる諸問題」三〇五〜三三二頁。

【論文】

- 一、「中国古代の山川敷沢」(『駿台史学』第三八号、一九七六年三月)、六七〜九九頁。
- 二、「前漢の国家と地方政治—宣帝期を中心として—」(『駿台史学』第四四号、一九七八年七月)、七六〜一〇五頁。
- 三、「秦漢の国家と農民」(歴史学研究会編『歴史学研究別冊特集 世界史における地域と民衆—一九七九年歴史学研究会大会報告—』、一九七九年一〇月)、四〇〜五一頁。

- 四、「秦漢における賦制の展開」(『東洋学報』第六五卷第一・二号、一九八四年一月)、六三〜八九頁。
- 五、「秦漢の兵制について―地方軍を中心として―」(『人文論集』第三六号、一九八六年一月)、三一〜七〇頁。
- 六、「漢代の復除について」(『東方学』第七三輯、一九八七年一月)、三四〜四八頁。
- 七、「漢代の仮作について―その歴史的特質についての一試論―」(『新しい歴史学のために』第一九五頁、一九八九年五月)、一〜一二頁。
- 八、「秦漢の商人とその負担」(『駿台史学』第七八号、一九九〇年二月)、二七〜五九頁。
- 九、「秦漢における徭役の諸形態」(『東洋史研究』第四九卷第三号、一九九〇年二月)、一〜三五頁。
- 十、「均輸法をめぐる諸問題」(『日本秦漢史学会会報』第六号、二〇〇五年一月)、九三〜一六頁。

【研究ノート】

- 一、「秦漢の郷里制をめぐる諸問題」(『歴史評論』第四〇三号、一九八三年一月)、一一〇〜一二〇頁。
 - 二、「關於秦漢徭役制度的幾個問題」(『秦漢史論叢』第四輯、一九八九年四月)、二三一〜二三八頁。
 - 三、「中国古代の「孝」をめぐる諸問題―秦・漢時代を中心に―」(『文化と哲学』第二二号、二〇〇五年一月)、五一〜五九頁。
- 四、Some Questions Concerning "Filial Piety" in Ancient China: With a Focus on the Qin and Han Periods (平成一五―一七年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))研究成果報告書『生命ケアの比較文化論的研究とその成果に基づく情報集積と発信』、二〇〇六年)、一二四〜一二七頁(日本語版「中国古代の高齢者をめぐる諸問題―秦・漢時代を中心に―」は同書一二八〜一三一頁に収録)。(*)

五、「堀敏一先生の中国古代土地所有制研究をめぐって」(『明大アジア史論集』一二号、二〇〇八年九月)、二一～二五頁。

(*)

【その他】

〔学会動向〕

一、「一九八〇年の歴史学界—回顧と展望 戦国・秦漢—」(『史学雑誌』第九〇編第五号、一九八一年五月)、二三三～二四〇頁。

二、「一九九四年の歴史学界—回顧と展望 戦国・秦漢—」(『史学雑誌』第一〇四編第五号、一九九五年五月)、二〇六～二二二頁。

三、「近年における秦漢経済史研究の成果と課題」(『アジア研究』(静岡大学人文学部「アジア研究」プロジェクト)第四号、二〇〇九年三月)、三七～五二頁。(*)

〔史料・文献紹介〕

一、「楊寬著、西嶋定生監訳、尾形勇・太田有子共訳『中国皇帝陵の起源と変遷』」(『歴史学研究』第五一八号、一九八三年七月)、五四頁。

二、「堀敏一『東アジア世界の歴史』解説」(堀敏一『東アジア世界の歴史』講談社学術文庫、二〇〇八年九月)、三四九～三五六頁。

三、「『張家山漢墓竹簡(二四七號墓)』の刊行によせて」(『日本秦漢史学会会報』第三号、二〇〇二年一〇月)、一三二～

〔書評〕

- 一、「渡辺信一郎『中国古代社会論』〔『歴史学研究』第五七七号、一九八八年二月〕、四四〇～五一頁。
- 二、「山田勝芳『秦漢財政收入の研究』〔『東洋史研究』第五四卷第三号、一九九五年十二月〕、一四九～一五九頁。
- 三、「池田雄一『中国古代の聚落と地方行政』〔『唐代史研究』第六号、二〇〇三年八月〕、一五八～一六四頁。

〔研究発表〕

- 一、「秦漢帝国成立期の二、三の問題」〔『唐代史研究会会報』第六号、一九九三年四月〕、二〇～二五頁。

〔共同執筆〕

- 一、「漢代の兵制」〔『歴史群像シリーズ三三 項羽と劉邦』下巻、学習研究社、一九九三年五月〕、一一四～一一六頁。
- 二、「兵制の変遷」〔『歴史群像シリーズ七八 争覇春秋戦国』学習研究社、二〇〇五年七月〕、一五二～一五五頁。
- 三、「竹浪隆良氏と共著」〔堀敏一『中国古代の家と集落』〔駿台史学』第一〇六号、一九九九年三月〕、四七～五一頁。
- 四、「古川勲氏と共著」〔中国古代の経済と通貨―前漢前期を中心にして―〕〔『アジア研究』〔静岡大学人文学部「アジア研究」プロジェクト〕第五号、二〇一〇年三月〕、六七～七九頁。（*）

（註） 重近啓樹先生は、自らの研究業績を分類して纏めた手書きの一覧表を生前に遺しておられた。本稿のうち、業績に

関する記述は主にそれに拠っている。ただ、そこに掲載されているのは二〇〇八年九月までの業績であるため、以降に発表されたものについては、戸部が新たに書き加えた（*）を付してあるのがそれである。